

# 【ねがいましては】

令和5年8月7日

KYOWA SCHOOL

第395号

「好きなことをしていいよ」

2023年8月7日付の読売新聞夕刊での記事です。

—Aさんは私立中に入学して間もなく学校に行けなくなった。学校の雰囲気になじめず、通学中の電車で頭痛や腹痛に襲われるようになり、外出ができなくなった。「学校に行けない自分は悪い子どもだ」。自らを責めたが、両親は「好きなことをしていいよ」と見守ってくれた。幼いころから電車に乗るのが好きで、部屋で時刻表を眺めたり、JR全線の普通列車が乗り放題となる「青春18きっぷ」で出かけたり。そんなふうにごすうち、「学校に行かなくても生きていいんだ」と思えるようになった。

鉄道マンを目指し、高校入学を機に再び学校へ通い始め、念願の鉄道業界に入った。—

この記事内容は、小田急電鉄が社員たちに事業のアイデア公募を行った際に取り上げられたものです。それにより小田急電鉄は、沿線に小中学生を対象にしたフリースクールを開講するそうです。決まったカリキュラムはなく、好きなことを突き詰める「探求学習」を掲げるそうです。例としては、列車が電気で動く仕組みや訪日客の対応に必要な英語、沿線のまちづくりなど、鉄道を足がかりにした内容を想定するようです。講師はこの公募を提案したご本人たちだそうです。(もうお一人、高校時代に学校に通えない時期があった方とです)

Aさんの場合は、私立中とありましたので、おそらく中学受験をされた方なのでしょう。受験のための勉強に日夜向かわれた経験をお持ちのようです。学校へ行けなくなる原因は多様なものがあるでしょうが、過去に好きなものがあったことが幸いしていることです。

彼にとって一番の力となったのがお母さまの一言でしょう。「好きなことをしていいよ」……。母親の『見守る姿勢』です。そこには子への『信頼』が見えます。

一般的には子が学校に行けなくなると、まず浮かべてしまう母親たちの心理は、「学校に通ってほしい」「将来が心配」と、不安をつのらせることになるのでしょうか。そこに子への『信頼』があるのでしょうか……。

文科省が定める不登校の定義です。→ 病気や経済的な理由以外で1年間に30日以上欠席している。

2021年度の不登校者数は最多の約25万人になります。小学生は77人に1人、中学生は20人に1人だそうです。私たちの暮らすこの地域の中学校であれば、間違いなくクラスに1人はいることになります。

行かないことは良いか悪いか……ほとんどの方は後者を選択されると思います。行かない子にとっての日常は、自由に外出できるのでしょうか。平日の午前中、中学生がひとり電車に乗っています。周りの方々はどのような思いをされるのでしょうか。その中学生は、それを恐れるあまりにおそらく電車には乗れないのかもしれませんが。自宅でひっそりと時が過ぎるのを待つだけなのでしょう。そんな暗い生活を連想させてしまうことが、私は社会の『罪』だと思えます。

義務教育という『罪』です。

本来の義務教育とは、子が学校へ行きたいという意思を示した際、親には必ずその意思を尊重し、子を学校へ通わせる義務が生じることを表しています。その意味を社会全体が誤解し受け止めているところに問題があることです。

小学校・中学校は必ず行かなければならないという誤った定義が浸透していることを社会全体で改めていかなければ、不登校という語彙から生まれる暗いイメージは払しょくされないのかもしれませんが。

なぜこんなにも多くの子どもたちが行かない状態になっているのか、原因を謙虚に調べ上げる必要があるはず。不登校になっている子どもたちの意思をしっかりと受け止める必要があると思います。また、できるものなら学校へは行きたくないけど仕方なく行っているという子どもたちの把握もせねばならないと思います。おそらく相当数が確認されると思っています。

子どもたちの理想とする学校像も把握することが必要でしょう。また、現在施行されている義務教育制度についても詳細にわたり検証すべきだと思います。制度の中で先生方も子どもたちも、もがき苦しんでいるように見えてなりません。

周りがすることをマネしながらただ何となく生活するのではなく、自分の意思で行動することが、失敗しようが成功しようが何よりも尊く敬いの念で評価される環境が教育には必須だと思います。「○○かもしれないので、本当にそうなるのかチャレンジしてみたい。」といった前向きな意思表示を何よりも大きな評価として褒めたたえる環境づくりが、子どもたちを前向きにし、希望をかかえながら学校生活を送る力となるはず。結果ばかりが先行し、毎日のように「どうしよう、どうしよう」と、不安の中で自分を溺れさせてしまう子供たち、同様に保護者の方々……。そして、子どもたちに励まされ救われる日々を夢見て教職に就かれた先生方に勇気一番、「点数ではありません」「順位ではありません」「結果ではありません」「勝ち負けではありません」……。

と、声を大にして叫んでいただくわけにはいかないのでしょうか。成績主義のお母さま方へ向けて……。